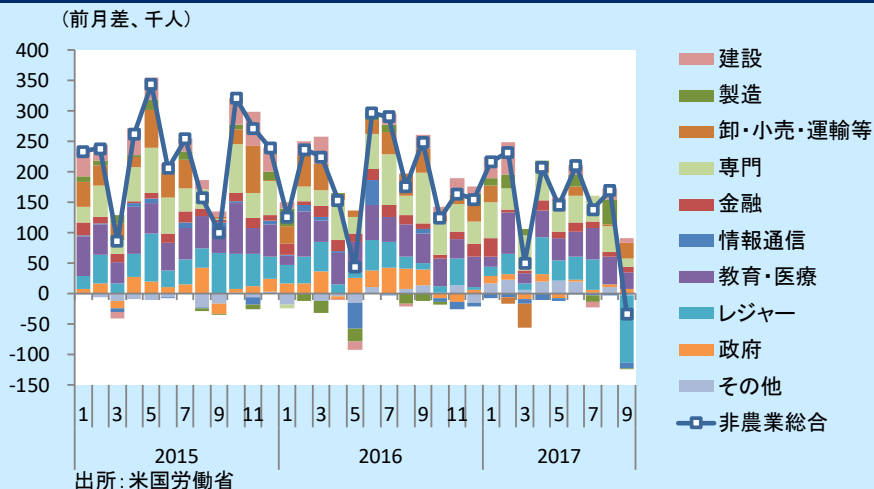


米国：雇用統計（2017年9月）

— 良好な雇用環境が継続 —

MRI Daily Economic Points
October 10, 2017

図表1 非農業部門雇用者数



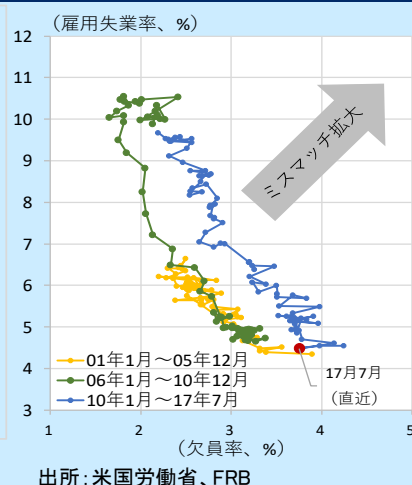
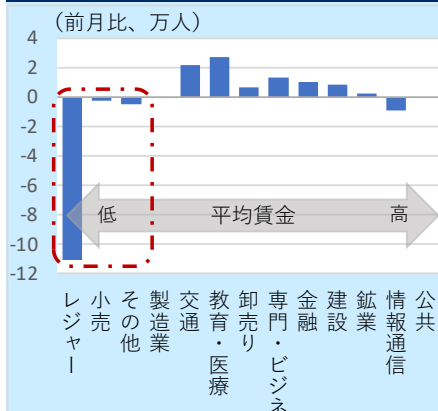
評価ポイント

今回の結果

- 17年9月の非農業部門雇用者数は、前月差▲3.3万人減と、前月(同+16.9万人増)から減少に転じた。
- 内訳をみると、レジャー(同▲11.1万人)が、1939年の調査開始以来、最大の落ち込みを記録。これは、8月下旬と9月上旬に米国南部を直撃した2つのハリケーンの影響とみられる。9月に小売業(同▲0.3万人)は2ヶ月連続で減少し、製造業(同▲0.1万人)も減少に転じた。また、教育・医療(同+2.7万人)や専門・ビジネスサービス(同+1.3万人)は伸びが鈍化した。
- 9月の失業率は4.2%と前月(4.4%)から改善。2001年2月以来の水準となった。労働参加率は63.1%と前月(62.9%)から増加した。
- 時間当たり平均賃金は前年比+2.9%と前月(同+2.7%)から伸びが上昇。ただし、これはハリケーンによる失業が比較的賃金が高い産業に集中していたことが主因と考えられる(図表2)。

図表2 産業別の雇用者数の伸び

図表3 UV曲線の推移



基調判断と今後の流れ

- 良好な雇用環境が続いている。9月の雇用者数の減少は、ハリケーンによる一時的な影響と見られる。
- 先行きも良好な雇用環境は続くと思われ。向こう数か月は、ハリケーン被害からの復興需要が雇用者数を押し上げるとみられる。
- ただし、復興需要がひと段落したのちは、雇用者数の増加ペースは鈍ると予想する。失業率は、既に長期均衡水準(4.7%)を下回っている。また、雇用失業率と欠員率の関係を示すUV曲線を描くと、2010年以降、企業・労働者間で雇用のミスマッチが高まっていることが分かる(図表3)。
- 下振れ要因としては、①FRBのバランスシート縮小に伴い、金融市場が不安定化し、消費が後退する場合や、②トランプ政権による減税やインフラ投資が期待ほど進まない場合などに、企業の雇用スタンスが慎重化し、雇用環境に悪影響が及ぶことが考えられる。